

「九州広域接続実験プロジェクト」の概要

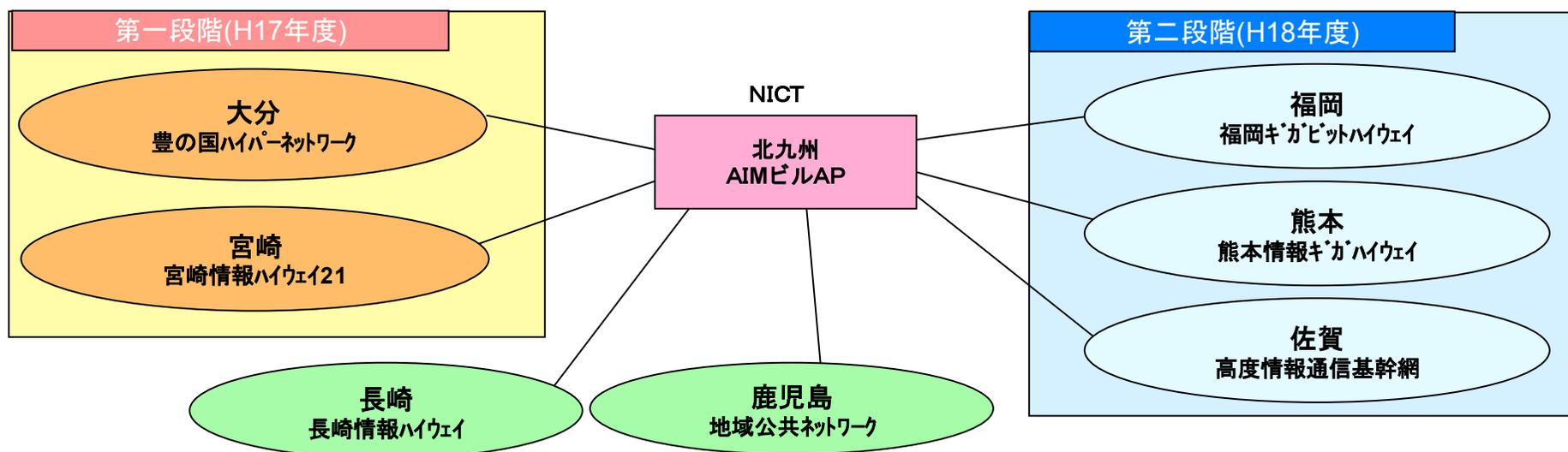
概要

平成17年度から次世代高度ネットワーク九州地区推進協議会(広域接続実験ワーキンググループ)において実施している、地域公共ネットワークと研究開発テストベッドネットワークであるJGN IIを繋いだ広域接続実験。

平成17年度は第1段階として、大分県の豊の国ハイパーネットワークと宮崎県の宮崎情報ハイウェイ21をJGN IIで接続し、主に教育分野での実証実験を実施。平成18年度は、第2段階として教育分野での広域接続実験を大分県、宮崎県、福岡県、熊本県に拡大して実施するとともに、防災分野、地域メディア(CATV)のアプリケーションに関する実証実験も実施。平成19年度以降は、各アプリケーションの実施地域の拡大を図るとともに、長崎県、鹿児島県への接続地域の拡大を検討。

なお、平成19年度からは、産学官の連携により九州地域において情報化を推進することを目的として設立された「九州情報通信連携推進協議会」の全面的な協力のもとで実施。

「九州広域接続実験プロジェクト」の展開



取組み概要

教育分野

高精細テレビ会議システムによる遠隔交流授業実験

実験参加校
福岡県:田川市金川中学校
佐賀県:小城市砥川小学校
熊本県:菊陽町菊陽中部小学校
大分県:日出町日出小学校
宮崎県:西米良村村所小学校



防災分野

広域災害情報共有システム(Widely Disaster Information Sharing system: 通称WIDIS)を活用した広域実験



- WIDIS:フリーのクライアントサーバシステム(地図は電子国土を活用)
- システムは汎用のブラウザで活用可能(専門知識なくとも運用可能)
- 九州専用のサーバーをNICT九州リサーチセンター内に設置

地域メディア分野

地域CATVコンテンツ相互配信実験

高速・広帯域なネットワークインフラを活用し、各CATVが保有する様々なコンテンツの相互配信実験を進め、九州内での地域コンテンツの広域的活用(流通)の可能性を検証する。



- ・18年度は、マルチキャストベースの配信実験を実施
- ・19年度は、佐賀総体競技広域中継実験を実施